

令和元年6月13日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01941

研究課題名(和文) 中国四川省における伝統的資源活用型観光地の開発保全意識に関する研究

研究課題名(英文) A study on Attitude Toward Development and Preservation of Traditional Tourism Area in Sichuan in China

研究代表者

大山 勲(OYAMA, Isao)

山梨大学・大学院総合研究部・教授

研究者番号：20160640

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、中国における伝統的資源を活用した観光地に対する観光客と住民の意識を明らかにすることである。得られた成果は以下の通りである。「住民の生活の様子」「歴史上の物語」の伝統的文化的要素が満足度にも高める影響を与える。しかし、これらは現在の地域の弱い部分であった。「伝統的生活の体験」「住民生活の様子を見る」といった生活文化資源は期待していたが満足が得られておらず、「住民とのふれあい」は住民(商業者)の意識も弱く、意識差が生じていた。現在、中国で進行している生活文化を消失させるテーマパーク型の開発が観光客の満足を下げる傾向を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中国では伝統的景観を有する観光地への人気が高まっている。本研究はそのような観光地の住民と観光客に対して意識調査を行い、意識の現状を定量的に明らかにした。既往研究の経済的評価や定性的評価ではなく意識面における定量的で信頼性の高い新たな知見を得ることができた。

また、伝統的景観を有する観光地で進められているテーマパーク化の政策は観光客・住民両者のニーズに合っておらず政策の方向転換の必要性を指摘でき、さらに、現在の中国における観光客の意識変化の実態はわが国の今後のインバウンド観光政策に対しても新たな知見を提示することができた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to clarify the demands of tourists and residents for tourism spots where traditional resources were utilized in China. The following results were obtained: The traditional culture (such as the life style of the local residents and anecdotes of the celebrities) has quite an effect on the tourists' satisfaction. But these were a weak part in the present area. Tourists are not satisfied by cultural resources of living as traditional life experiences or observing residents' life style, which are expected by tourists too. Therefore, ideological differences emerge when these resources are ignored by merchants who communicate often with local residents. It was found that the development of the theme park type that makes life culture disappear may decrease the tourists' satisfaction.

研究分野：都市農村計画、景観工学、観光まちづくり

キーワード：観光地 景観 伝統 意識調査 中国 地域資源 環境保全

## 1. 研究開始当初の背景

### (1) 中国における伝統的資源の保全と観光開発の課題

中国では、文化大革命で伝統的建造物や文化の破壊が起こり、近年の経済成長下では経済優先の政策によって歴史的環境が変容している。例えば、伝統的資源を活かす地域における開発では住民を移転させて建築の表層を修景して店舗街とし、観光業者に貸し出して旧住民を家賃収入で生活させるといった政策がおこなわれている。観光客を迎え入れる開発を行いつつ伝統的資源を保護継承する持続的な地域づくりの手法の検討が急務である。短期の経済発展か長期の地域の持続的発展か、そこには観光客・住民・開発者の意識が深く関わっていると考えられる。

### (2) 研究の位置づけ

中国では学術研究として、経済面以外に着目した研究が少なく、観光業者や住民の意識・活動や観光客の意識に着目した研究は少ない。わが国の研究も含めて開発と保全の調和に関しても必要性和課題は挙げられているが、具体事例の総合的な把握（従来は建築空間の変容のみに着目した研究が多いが、都市集落空間や開発意図・方法や様々な主体の意識や評価といった総合的な把握）や開発効果の検証に関する研究は不十分である。

## 2. 研究の目的

そこで本研究は中国において伝統的資源を活用した観光開発を進めている地域を対象として、政府・開発業者による保全と開発の実態、および観光客・住民（商業者）の意識の現状や意識の相違、を明らかにすることによって、保全と開発の調和した観光地づくりの方策に関する新たな知見を探ることを目的とする。

## 3. 研究の方法

主な研究対象地域は四川省の古鎮（伝統的景観を有する集落・小都市）とし、途中経過の調査結果を踏まえながら比較対象として伝統的生活文化が失われていない地域や新たな開発方法を取り入れた地域やインバウンド観光の先進地等を比較対象地域とした。対象地（予備調査も含む）は成都市および郊外郡部にある「錦里」「文殊院」「寬窄巷子」「水井坊」「安仁」「黃龍溪」「元通」「西來」「成都市内の農家楽（飛鵝村等）」、比較対象地は「松原、公主嶺經濟開發區（吉林省）」「黒井（雲南省）」「烏魯木齊（新疆ウイグル自治区）」「熊野古道（日本）」とした。調査は空間調査（建築物の景観、建物用途、店舗業種、道の景観、空間利用状況等）と意識調査（観光客の意識、商業者（住民）の意識）を2015年から2018年にかけて行った。当初は政府へのヒアリング調査も予定していたが中国の政權交代によって政府の情報が厳しく管理されるようになり、一部地区の計画・設計書は入手できたものの十分なヒアリング調査には至らなかった。開発者側（政府および民間開発業者）の意思は空間の開発実態から読み取ることとした。

## 4. 研究成果

### (1) 開発の特徴

新開発（居住者が無くテーマパーク化）：錦里、黃龍溪の一部、再開発（殆どの居住者は移転し商業空間化）：寬窄巷子、建物の修復と新規開発（居住者が残るが一部にテーマパーク

のような開発も進行している): 黄龍溪の一部・文珠院・安仁・元通・西来、水磨、に分類された。比較対象地は 開発前で原風景・生活文化が残っている: 松原・公主嶺・黒井、 自然環境資源と生活文化資源を総合的に利用し環境保全に配慮した開発: 烏魯木齊、である。

(2) 観光客の意識 — 総合的満足度に強く影響を及ぼす要因の探索

その地域を観光した後の地域に対する評価(総合的満足度)に影響を与える要因として図-1の要素を設定し、影響の度合いを CART 法によって分析した。その結果、「住民の生活の様子をみる」が総合的満足度に最も強く影響し、加えて「歴史上の人物の物語」が総合的満足度を高めていた。目に見える景観の背後にある景観を生み出す生活文化要素(ソフト)が総合的満足度に大きな影響を与えていた。観光客の意識の現状が、娯楽的な段階から「地域の伝統的な本物の生活文化を知りたい」という段階に進み、表面的な景観や気軽な食や土産物だけに満足せずその背景にある過去から現在に受け継がれる生活文化の発見を求める段階に成熟しつつあると推察された。一方、生活文化に係わる他の項目の「地域の歴史文化を知る・学ぶ」「伝統生活の体験」「住民とのふれあい」といった学習体験は総合的満足度に強い影響を与えていなかった。このことは体験学習型観光のニーズが成熟していないとも考えられるが、この点は(6)の分析と合わせて分析する。総合的満足度を低めることに影響していた要因は「偽物の町並み景観・建築物」に対する不満であった。観光客は偽物の建築、本物の生活文化に乏しい空間を見破り、そのことが総合的満足度を下げる要因であることが明らかになった。現在進められているテーマパーク化は観光客のニーズに合っていないことが示唆された。

Q1: 住民の生活の様子をみる	Q2: 伝統的な生活の説明を聞く	Q3: 伝統生活の体験(耳掻きなど)
Q4: お茶屋体験	Q5: 住民とのふれあい	Q6: 伝統的演劇(川劇など)を観る
Q7: 個々の歴史的建築物	Q8: 伝統的な街並み景観(全体の雰囲気)	Q9: 水辺の景観
Q10: 緑の景観	Q11: 歴史上の有名人物の物語	Q12: 地域の歴史文化を知る・学ぶ
Q13: 伝統的な食事をする	Q14: 伝統にこだわらず食事する x	Q15: 伝統的な品物を買う
Q16: 伝統にこだわらない買い物 x	Q17: のんびり過ごす(休息) x	Q18: 麻雀・トランプなどを楽しむ x
Q19: 友人や家族との団らん x	Q20: 出会い(観光客同士) x	Q21: 街の清潔さ
Q22: トイレの清潔さ	Q23: 歩きやすい道の舗装	Q24: 休憩できる場所
Q25: 街の案内板や解読板	Q26: 夜のライトアップ	
記号の意味	: 地域の伝統資源	x: 地域資源と無関係、 : 基盤整備

図-1 総合的満足度に影響を及ぼすと考えられる調査項目の一覧

(3) 地域資源の強みと弱みの探索

個々の要素(調査項目)の満足度とその要素の総合的満足度への影響度合いを同時に分析するCS分析を用い、地域資源の強みと弱みを探索した。その結果、現在の地域の強みであり、今後も維持すべき要素として「街並み景観や歴史建築物といった歴史景観」「水辺や緑の景観といった自然景観」「街やトイレの清潔さ」「のんびり過ごす・休憩できる場所」「伝統的な食事」が挙げられた。現在は地域の弱みであるが、最優先に改善をはかることによって地域の評価を上げる可能性のある要素として「住民の生活の様子を見る」「伝統的な生活の説明を聞く」「伝統生活の体験」「夜のライトアップ」が挙げられた。これら改善をはかるべき要素は地域住民の存在が不可欠であり、現在進められている地域住民の流出政策は観光客のニーズに合っていないことが示唆された。

#### (4) 観光客の地域への自由感想 — ヒアリングデータのテキストマイニング分析

ポジティブな評価として「歴史的景観」「伝統的文化」の他、「食事の調理過程が見えること」が挙げられた。ネガティブな評価としては「ポイ捨て」や「店舗のサービスの悪さ」など観光客・商業者両者のマナーの問題、「観光客向け店舗が多すぎる」「経済意識が強く文化を大切にす  
る雰囲気が薄い」といった開発過剰の問題が挙げられた。地域と観光客の交流のあり方、過剰な開発の抑制と生活文化の保全が今後の課題として指摘された。

#### (5) 商業者（住民）の意識

住民（調査の結果、殆どが物販・飲食・宿泊等の業を営んでいたため、商業者とする）への意識調査をおこなった。調査内容は「地域への意識（歴史継承、景観保全、協働など）」「観光地の方向性（伝統の保護か活力か）」「行動の実態（歴史の学習、観光客への説明など）」「暮らしへの満足（金銭面、精神面）」とした。その結果、地域の将来の持続のためには歴史・文化・伝統的な本物の景観を重視すべきであるという意識が極めて高かった。しかし開発がまだされていない地域では近代的な生活の指向性も若干みられた。一方で、暮らし向きと地域づくりへの実際の行動の間には関連は見られず、経済的な活性化は必ずしも意識や行動に良い影響を与えていないことが示唆された。

#### (6) 商業者（住民）と観光客の意識 — 期待度・満足度・重視度のギャップ分析

個々の要素（調査項目）に対する観光客の期待度と満足度、および商業者の重視度（観光客のために重要と思う要素）を比較分析した。観光客は期待せず、商業者も重要とっていなかったが、来訪後は観光客の満足度が高まった要素は「のんびり過ごす」「団らん」「水辺や緑」であった。伝統的な街並みやのんびりした人の営みの雰囲気に浸りながら、また自然景観に浸りながら、豊かな時間を過ごすことが評価されたと考えられる。古鎮では建築物の保全や歴史の学習が主な施策と捉えられがちであるが、伝統的建築や景観のみならず、総合的な雰囲気（暮らし向き）や寛げる空間の維持と向上が観光地魅力の厚みを増やすために重要であることが示された。

観光客が期待していたにもかかわらず、満足が得られなかった要素は「生活文化の体験をする」「生活文化を知る」「歴史文化を知る」であった。商業者はこの要素の重要性を認識していなかった。したがって、これは喫緊に改善方を検討することが必要な課題である。(2)の分析結果では「生活文化を知る（見る）」が総合満足度を左右する重要な要素として指摘されたが、「体験」は指摘されなかった。しかし「期待」と「満足」のギャップの分析からは特に「体験」が重要な要素と指摘された。これは、殆どの人が「体験」が不満だったために「総合満足度」を左右しなかったためと考えられる。期待の高い「体験」をより充実させる必要が示された。商業者は地域の生活文化が観光客のニーズであるとの認識は薄い  
が、自らの生活文化を維持したいとする意識は高かった(5)。しかし、「生活文化体験」に観光客が満足していないことから、現状の提供の内容や方法が観光客のニーズと噛み合っていない可能性が高い。

#### (7) まとめ

中国において、伝統的資源活用型観光地に対する観光客および商業者（住民）の意識を定量的に明らかにした。観光の本物志向への意識は予想以上に高まっていた。政府主導で行われて

いる“住民を移転させテーマパーク化する観光開発手法”は観光客のニーズに合っていないこと、地域住民（商業者）も自らの生活文化が観光客にとって価値あるものとは気づいていないこと、しかし地域の人たちは自らの伝統文化を守る方向を重視しそれに貢献したい意識は高いこと、が明らかにされた。わが国においてもインバウンド観光における中国人観光客の嗜好性の現状については十分に把握されていない。本研究が捉える意識の動向は、現在は中国国内旅行にとどまっている中流層や若者の将来ニーズの芽を俯瞰することとなり、現在来日している富裕層の観光行動や意識とは異なる将来の予見的な傾向であると考え。わが国においても伝統的で地域独特の生活文化の継承・復活・持続とそこから町並み景観が必然的に生まれるような観光地づくりが、中国からの観光客を呼び込むためにも急務であり効果的であることが示唆される。

#### (8) 今後の展望

空間整備手法の改善方策、地域住民の意識啓発の方策についてさらに検討を重ねていきたい。さらに「生活文化の体験・知る」の内容の実態と意識についても、詳細な現地調査を重ねていく必要がある。発表済みの成果は、研究結果の一部であり、今後も残る研究結果の分析を進めて公表していきたい。

#### 5 . 主な発表論文等

[ 雑誌論文 ] ( 計 3 件 )

劉岩、李力、大山勲、伝統的観光地の観光客と商業者の意識に関する比較調査 -成都市近郊地域を対象として-、北京日本学研究中心、日本学研究、査読有、13号、2018、114-125  
<http://www.hakuteisha.co.jp/book/b437184.html>

Yan LIU、Shaowei NING、Isao OYAMA and Li LI、Study Informing Policy on Chinese Ancient Town Tourism Based on a Tourist Satisfaction Survey: A Case Study in the City of Chengdu、MPDI Sustainability 2017、査読有、9(7)号、2017、No.1087  
DOI:10. 3390/su9071087

劉岩、万可、李力、下川敏雄、大山 勲、成都市および近郊地域における観光地開発の現況 -中国における伝統的観光地の顧客ニーズ調査-、日本感性工学会論文誌、査読有、15 卷 1 号、2016、163-172

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjske/15/1/15\\_TJSKE-D-15-00058/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjske/15/1/15_TJSKE-D-15-00058/_pdf)